

令和3年度 前期 学校評価

資料1 自己評価

資料2 生徒アンケート

南アルプス市立
白根御勅使中学校

令和3年度

白根御勅使中学校関係者評価委員

秋 山 契 様

岡 貞 善 様

松 本 卓 馬 様

田草川 リードル 様

横 内 綾 子 様

1 学校評価の目的

- ① 各学校が、自らの教育活動その他学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

2 学校評価の方法

- ① 自己評価は、全職員による自己評価をもとに、生徒・保護者へのアンケート（生徒年2回、保護者年1回）の結果を加えて行う。
- ② 自己評価は、年2回行う。
- ③ 自己評価の結果を踏まえて、学校関係者評価委員会による学校関係者評価を年2回行う。
- ④ 自己評価と学校関係者評価の結果を公表する。
- ⑤ 自己評価と学校関係者評価の結果をもとに、改善点を全職員で共有し、来年度以降の学校教育に活かしていく。

3 前期自己評価

I 自己評価の具体的方法

- ① 本年度の学校教育目標をふまえて、評価項目を決定する。
- ② 全職員が評価項目を4段階で評価する。
 - 4 ; あてはまる
 - 3 ; どちらかというにあてはまる
 - 2 ; どちらかというにあてはまらない
 - 1 ; あてはまらない
- ③ 全員の評価結果を集計し、項目ごとの平均値を算出する（小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁で数値化）。この平均値を次のカッティングポイントに照らして、判定する。

3. 0以上	A (概ね良好である)
2. 9～2. 5	B (工夫・改善の余地がある。)
.....		
2. 4～2. 1	C (工夫・改善が必要である。)
2. 0以下	D (根本的に工夫・改善を図る必要がある。)

- ④ 全生徒と全保護者（後期のみ）に向けて行うアンケートは、職員の自己評価項目と関連させながら項目を決定し、職員の自己評価同様4段階の数値で評価する。アンケートの結果から項目ごとの平均値を算出し、職員の自己評価と同じカッティングポイントで判定（A～D）する。
- ⑤ 職員による自己評価をもとに、これに生徒・保護者（後期のみ）へのアンケート結果を加えて自己評価書を作成する。

II 前期自己評価結果（自己評価書）

南アルプス市立白根御勅使中学校	令和3年8月17日（火）作成
学校長 清水英樹	記載者氏名 教頭 今津義弘

1 本年度の学校教育目標

- (1) 校訓 「一生懸命」
- (2) 学校教育目標 「志を持ち、道を拓く生徒」
- (3) 目指す生徒像
知を磨く生徒 心を耕す生徒 体を鍛える生徒 故郷を愛する生徒

(4) 令和3年度指導重点

- 「新しい時代に必要となる資質、能力」をはぐくむ教育課程の編成
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた確かな学力の育成
- 様々な体験活動を通じた豊かな心の育成
- 実践活動から鍛える、健やかな体の育成
- グローバルに活躍する人材の育成
- 安全確保と危機管理の徹底

2 職員自己評価(資料1)、生徒アンケート(資料2)

令和3年7月に、学校職員による自己評価及び生徒によるアンケートを実施した。その質問項目と集計結果を、資料1～2に示した。

自己評価の評価項目は、令和2年度に見直しを行った。現状の学校職員や、生徒の状況等を考えた内容項目に見直し、より具体的な内容について評価が行われるようにした。

生徒アンケートは大幅な見直しはないが、学習関連・生活関連のように項目の並び替えを行った。新規の項目として「学校の施設設備」が加わり、項目数は19となった。

保護者アンケートは、年1回後期のみの実施である。学校の様子が保護者にも十分伝わった後期にアンケートを取り、その後及び翌年度の教育活動に生かしていく。項目は生徒アンケートと内容を一致させるように見直した。尚、自己評価及び生徒・保護者アンケートともに、昨年度同様、記名式とした。

昨年度と今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策のため、学習期間の短縮や学園祭や修学旅行など行事の内容変更、部活動の活動制限や大会自粛など、多くの教育活動が通常通りできない状況での評価、アンケートになってくるため、より考察をしっかりと行い、今後もコロナ禍の状況が続く中、変えるべきもの、変えてはいけないものをしっかりと考え教育活動を行っていきたい。

3 評価と改善策

(1) 全体的な評価

今年度の職員による自己評価の傾向は、全25項目がA判定となった。この結果から、本校の教職員が日々の職務に誠実に取り組んでいることが見てとれる。

しかし、昨年度の後期の値と比べると、値が上がったのは1項目のみであり、20項目で0、1～0、4ポイント下回っている。これは、全体的に前期の評価よりも後期の方が上がる傾向があることや、新型コロナウイルス感染症対策の中での活動が長く続いていることが、教職員の意識にも少なからず影響を与えているとも考えられる。

「Ⅲ 学習指導」の項目では、「基本的な知識・技能の習得」が0、3ポイント下がっている。中学校でも今年度より新学習指導要領が実施される中で、主体的・対話的で・深い学びの視点からの実践は、今後も校内研の中でも取り組んでいく。またGIGAスクール構想による、ひとり一台端末が導入されたことにより、話し合い活動や発表のしかたなどもこれまでとは違う形態での実施が進んでいく。まだ手探りの状況だが、より有効に活用できるよう取り組んでいきたい。

「IV 生徒指導」の項目では、「適切な部活動指導」が0, 3ポイント下がっている。コロナ禍で練習制限や大会等も変更, 中止もある中での活動であるため, 教師自身も指導の難しさを感じている。今後もこの状況が続くことが予想されるため, より部活動の意義や目標の持たせ方, 具体的な指導内容などを部の担当だけではなく, 学校全体で考えていきたい。

「Vの家庭地域との連携」の項目を見ると, 地域との連携活動の一つ古紙回収も昨年, 今年と中止になったり, P T A親子愛好作業も中止になるなど新型コロナウイルス感染症対策の影響が少なからず結果にもでていていると考えるが, 学校ホームページの積極的な活用や, C A T Vと協力をして家庭や地域への情報提供をしっかりとおこなっていくなどの取り組みを促進していきたい。

「VI 学校の特色」の項目では, A判定としては比較的低いポイントになっているのが「生徒のあいさつ」と「生徒の部活や行事への積極性」である。教師自身の指導意識の中に, もっと頑張ってもらいたいという思いが強い項目でもあるため, 生徒の意識と少し差が出ている。今後も教師の指導と生徒意識が一致し, 頑張りがさらに表面にも出てくるような取り組みを考えていく必要がある。

生徒アンケートについては, 全19項目がA判定であった。昨年度の後期と比べてみると3項目が上がり, 11項目が下がっているが, どの項目も0, 1の下がりであるため大きな変化ではない。今までの課題の1つであった「家庭学習」は0, 1ポイント上がっている。「あいさつを大切にしている」「言葉遣い」のポイントも上がっているが, 教師の指導意識と生徒の評価に差がある項目であるため, 今後の指導の中で, 教師と生徒の思いが一致していくよう取り組んでいきたい。

現在の白根御勅使中学校の生徒は非常に落ち着いていて, 問題行動もなく, 授業規律もしっかりとつくられている。しかし新型コロナウイルス感染症対策, 新学習指導要領への対応, G I G Aスクール構想に伴う授業形態の変化など, 数多くの課題を抱えている。「社会に開かれた教育課程」を推進し, 学校と家庭, 地域が連携して一つ一つの課題にしっかりと対応し, 白根御勅使中学校の教育水準がさらに高まっていくよう努力していく。この前期学校評価の結果を職員全体で共通理解し, 改善に努め, 2学期以降の教育活動に生かしていきたい。

(2) 各項目の評価と改善策

評価項目 I 「学校教育目標」に関して
<p>【自己評価】</p> <p>2項目ともA判定(3.8)の高い評価であった。教職員が日々の教育活動において、「校訓」「学校教育目標」を心にとめる中で, 一生懸命取り組んでいると考えられる。</p>
<p>【改善策】</p> <p>学校教育目標を具現化するため, 日々の教育活動の中で一人一人の教師が, どのように指導し, どのように取り組んでいくのかを, 共通理解をしっかりと持つ中で進めていくことが大切である。また今の社会, これからの社会をしっかりと見据え, 「学校教育目標～志をもち, 道を拓く生徒～」</p>

を育てていく。そのためにも、目の前の生徒たちをしっかりと理解し「目指す生徒像」の4つの姿を意識した教育活動を展開していくことが大切である。

評価項目Ⅱ 「学校経営・学校運営」に関して

【自己評価】

6項目すべてがA判定であり、4項目が3.6～3.9ポイントという高評価であった。このことから、本校の先生方は、学校経営方針をしっかりと理解し、熱意をもって望ましい学校経営・学校運営にあたっていると考えられる。

【改善策】

今後も教師一人一人の力が発揮できるような、教員組織・チームとして取り組んでいくことが大切である。組織力の高まりが一人一人の教員の意識を高め、一人一人の教員意識の高まりが、組織力を高めていくことにつながる。教職員が学校内での自分の立場や役割に責任感と使命感を持ち、意欲や自信をもって力を発揮できる校務分掌、職場づくりを進めていく。

評価項目Ⅲ 「学習指導」に関して

【自己評価】

生徒アンケートの結果、白根御勅使中学校の多くの生徒が、「授業に真面目に取り組んでいる」「勉強することは大切」「先生はわかりやすい授業をしている」の項目を高評価としている。ここ何年かの課題であった「家庭学習」についても3.2ポイントのA評価である。この結果を見ても落ち着いた雰囲気の中授業に取り組み、宿題や塾等も含めた家庭での学習習慣も身につけてきていることが読み取れる。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策による授業内容の制限が今年度も続き、対話的な学習やグループワークでの学習、音楽での合唱活動や体育での集団活動など通常の授業ができない状況が今もつづいている。そんな中ではあるが、新学習指導要領の実施に伴い、本校では「やまなしスタンダード」を意識した授業づくりに継続して取り組んでいる。また、一昨年度から校内研に大学教授を招聘し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究を進めており、質の高い探求課題に小集団で取り組む授業の形態を研究している。また今年度はGIGAスクール構想に伴い、ひとり一台端末・ICTを活用した授業にも取り組み始めている。早急な導入のため、環境面も含め多くの課題があるが、今後もより効果的な活用を目指し、意味のある学習活動ができるように取り組んでいきたい。

またNo.6「卒業後の進路や将来の仕事」については、1年生だけみると平均2.8ポイントとB判定になり、2年生は3.2ポイント、3年生は3.2ポイントと学年が上がるにつれ上昇している。進路学習の取り組みの成果がでていとも考えられる。今後も進路学習や職業講話などをしっかり行って意識を高めていきたい。

【改善策】

全国学力学習状況調査等の結果からも、本校の課題の一つとして学力の向上があげられる。落ち着いた授業状況や家庭学習意識の高まり見られる中、知識の定着、学力の向上に是非つけていきたい。それには教師一人一人の授業力、指導力の向上が必要である。本校では、校内研に大学教授を招聘し指導を仰ぐとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、昨年度からは県総合教育センター研究協力校となり、授業改善・授業力向上に向け指導を受けている。またGIGAスクール構想に伴い、ひとり一台端末・ICTを活用した授業にも積極的に取り組み始め、今後もより効果的な活用を目指していきたい。残念ながら、依然として新型コロナウイルスの影響により制限のある中での授業となっているが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてできることを模索しつつ、より質の高い授業作りを目指して、教師同士がお互いの授業を見合う機会を増やすなど、教員同士も切磋琢磨し、学び合う職場の雰囲気も高めていきたい。

評価項目Ⅳ 「生徒指導」に関して

【自己評価】

昨年度に引き続き大きな問題行動はなく、生徒たちは規律をもって学校生活を送っている様子が見られる。これについては自己評価「良い点を認め励ますように」「個に応じた指導」の項目が3.8ポイントと高い数値になっていて、各教師が生徒の自己肯定感を高めようと意識している成果が出ていると考えられる。またコロナ禍で携帯電話やスマートフォンでの生徒同士のトラブルが増えることも予想されるため、生徒会本部が中心となって生徒総会の中でトラブル防止の宣言を出すなどの自主的な取り組みも成果につながっていると考えられる。生徒アンケートにおいても、「ルールを守る」、No.10「命を大切にし交通ルールを守る」、No.11「いじめをしない」の各項目が3.6～3.8ポイントの高評価であった。このことから、生徒たち自身もルールをしっかりと守り、落ち着いた学校生活を送っているという意識を持っていることがわかる。

ただし、生徒アンケートのNo.1「学校が楽しい」については、高評価ではあるが3年生が3.1ポイントで、他学年に比べ低くなっている。卒業後の進路に向けて思い悩み、将来に向けて真剣に考える時期であるためと考えられるが、しっかりと目的・目標を生徒に持たせ、適切な教育活動ができるよう努力していきたい。

今後も全ての学校教育活動を通して、それぞれ生徒一人一人の状況をしっかりと把握、理解をして、時には個の生徒に対し、時には集団に対し適切な生徒指導を行っていきたい。

【改善策】

上記でも述べたように、白根御勅使中学校全体としてみると、非常に落ち着いた雰囲気の中教育活動が行われている。しかし今後もコロナ禍の中、様々な教育活動において内容変更や自粛が求められるなど、難しい状況がつづいていく。教師が現状に満足することなく、「教育は人づくり」の気持ちを忘れず、どのような状況であっても一人一人の生徒に誠実に向き合い、使命感をもって関わっていきたい。

また本校は育成福祉センターから通学している生徒もいる。複雑な家庭環境の中、様々な問題を抱えている生徒もいるため、今後も育成福祉センターや児童相談所としっかり連携し、安心して登校できる環境をつくっていく。また不登校問題に関して、今年度は完全不登校になっている生徒はいないが、休みの多い不登校傾向の生徒は各学年にいる。体調面や精神面などそれぞれの生徒によって原因は違い、簡単には解決できない状況も見られるが、学年・担任・養護教諭・スクールカウンセラー、生徒支援委員会等、チームとして機能し、対応していけるように、今後もしっかりと連携し協力していく。

またいじめや問題行動に対しても、未然防止・早期対応・早期解決に努めていく。特に未然防止には常に高い意識を持つことが大切であり、日々の生徒との関わりを大切にし、いじめアンケートの他にも、生活ノートでのやり取り等、生徒の声に耳を傾け、小さな変化も見逃さないよう全教師で取り組んでいく。

評価項目 V 「家庭・地域との連携」に関して

【自己評価】

3項目すべてにおいて平均3.7ポイント以上のA判定となった。コロナ禍のため、多くの教育活動において例年通りの保護者の参観ができなかったり、地域の行事などもできない状況が続いているが、各教師の意識は家庭、地域との連携の大切さを感じている。

今後もすぐに状況は変わらないが、活動を工夫する中で日々の教育活動に真摯に取り組み、伝統ある白根御勅使中学校として地域・保護者・生徒から信頼され、白根御勅使中学校が地域の誇りとなるよう努めていきたい。

【改善策】

コロナ禍ではあるが、4月には保護者分散による授業参観、5月には地震災害による引き渡し訓練を、はじめて小中合同で行い、大きな成果を上げることができた。しかし新型コロナウイルス感染症対策により、保護者や地域の方に学校に来ていただくことが今後も難しい状況が続く中、学校からの丁寧な情報提供は欠かせない。今後も、各たよりや学校ホームページによる情報発信、学校連絡メールの適切な活用等により、学校から保護者への情報提供を密にするよう努め、保護者との連携・協力を推進する。

また、従来のように地域の行事への参加や生徒会活動の古紙回収などはできない中ではあるが、新しい生活様式の中、「社会に開かれた教育課程」をしっかりと意識し、保護者や地域の願いを受け止め、連携して社会や地域を支える人材を育成していくことが、学校の使命だと考える。

VI 「学校の特色」に関して

【自己評価】

3項目すべてがA判定であり、学校の取組が定着しつつあると判断できる。しかし、No. 24「あいさつ」は3.1ポイントとA判定ではあるが、25項目中、最も低い数値であった。生徒アンケートでは3.7ポイントであり、教職員と生徒の評価に差がある。感染症対策のため、常時マスク

を着用していることもあり、しっかりしたあいさつが伝わりにくい場面もあると考えられる。あいさつは大切なコミュニケーション活動の一つとして、今後も学級や部活動の中でも大切に指導していく。また、No. 25「部活動や学校行事への参加」も3. 2ポイントとやや低めの結果であった。多くの教育活動に、コロナ禍での制約が付き、思い描いている活動がなかなかできないと感じる場面があることも事実である。今後も状況をしっかりと判断し、生徒の安全を最優先に考える中で、教師も生徒も充実感、達成感を感じることができるよう教育活動を考えていきたい。

【改善策】

「紅タイム」の朝の10分間読書は定着している。司書中心に今後も「読書は心の栄養素」になるよう、読書の質の向上等に取り組み、尚一層充実した時間となるよう丁寧な指導を継続していきたい。

「あいさつ」については、本校では小笠原流礼法によるあいさつを励行している。また、小中連携活動の一環として、小学校に中学生が出向き、小学生と一緒にあいさつ運動を行うなど、生徒の自主性を育てることも行っている。いろいろな活動の中で、あいさつの大切さを教えていき、教師も率先してあいさつし、「自分から」「一人でも」気持ちのよいあいさつができるように取り組んでいきたい。

4 学校関係者評価

I 第1回学校関係者評価委員会

実施日：令和3年8月26日（木）～9月15日（水）

参加者：学校関係者評価委員 …… 秋山 契（委員長） 岡 貞善（副委員長）

松本卓馬 田草川リードル 横内綾子

学校職員 …………… 校長：清水英樹 教頭：今津義弘

教務主任：平賀文仁

※新型コロナウイルス感染対策により紙上提案とした。

1 学校側から提案された内容

- (1) 白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会会則について
- (2) 学校評価の目的について
- (3) 学校評価の方法について
- (4) 前期自己評価及び生徒アンケートの結果について

2 協議された主な内容

- (1) 自己評価結果についての全体評価
- (2) 自己評価結果から課題となる項目について
- (3) 生徒アンケートの結果と課題となる項目について
- (4) その他

II 令和3年度 南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価書 (写)

平成3年9月15日（水）

学校関係者評価委員作成

教職員による自己評価は、全25項目すべてがA判定である。この結果から白根御勅使中学校では全教職員が学校教育目標や学校経営方針を理解し、各領域で熱意をもって学校運営にあたって取り組んでいる成果が表れていると感じる。今後も細かな問題点を見逃すことなく、校長先生のリーダーシップのもと、教職員の共通意識と連携をしっかりと持ち、学校運営にあたってほしい。

生徒アンケートで「私は、学校は楽しいと思う。」の項目は平均3.4のA判定ではあり、コロナ禍でも元気に頑張っている生徒が多く安心である。しかし「1」と「2」を答えた「どちらかといえばあてはまらない・あてはまらない」生徒が29人で約14%いる状況も見られる。全体の評価だけでなく、このような生徒が、一人でも少なくなるように取り組んでほしい。家庭でも、しっかり寄り添いながら、愛情を持って取り組んでいきたい。

新型コロナウイルス感染症対策で不安も多い中、全体的に高評価になっていることは素晴らしいこ

とだと思ふ。感染症対策と学校教育，学校行事推進の両立は困難なことも多いと思ふが，時に生徒の目線になって，学びの機会を可能な限り確保してもらいたい。

全体的には，教職員の自己評価及び生徒アンケートともに高い評価となっている。今後も生徒一人一人の自主性や主体性を引き出す取り組みを工夫し，意欲や積極性を向上させてほしい。昨年度から学校の教育活動は大きく変わっている状況の中であるが，今ある学校の姿，今目の前にいる生徒の様子をしっかりと見ていく中で，教師全員が力を合わせ，保護者や地域と協力，連携して白根御勅使中学校生徒の健全育成に力を入れてほしい。

記載責任者

南アルプス市立白根御勅使中学校 学校関係者評価委員会委員長

秋 山 契 